

「伝え合う力」を育む新聞の活用

宮崎県立高城高等学校
教諭 横山 康代

1 はじめに

NIE実践校の指定を受けて2年目となった。昨年度は、地元紙の宮崎日日新聞を中心に記事の切り抜きを行い、切り抜いた新聞記事について、生徒が学年集会の場や授業で意見を発表するなどの形で新聞を活用した。

今年度は全国紙も利用して、より一層学習の充実を図った。

2 NIE実施時期と新聞の設置場所

実施時期は昨年度と同様9月からの4ヶ月とした。異なる実施時期を検討したが、就職試験や推薦入試の準備のために3年生の利用が増えるこの時期を選定した。

学校の既読紙は朝日新聞と宮崎日日新聞である。そこへ、朝日新聞・読売新聞・日本経済新聞・毎日新聞・西日本新聞・宮崎日日新聞の6紙を4ヶ月購読させていただいた。

当日の新聞は、図書室にNIEコーナーを設置し生徒の閲覧に供している。その月の分の新聞は図書室内の棚に保管し、切り取りや持ち出しは取りあえずは禁止である。しかし、2ヶ月を過ぎた新聞は図書室前の廊下の棚に置き、生徒、職員だれでも自由に切り取ってもよいし、持ち帰りも可というルールは昨年同様である。

3 実践報告その1 教師が率先して記事をスクラップする

様々な分野の記事を教師が切り抜き、職員室近くの廊下にある掲示板に貼っている。「生徒に読んでもらいたい記事」を中心に切り抜いている。記事の「鮮度」を意識しながら、また、生徒が掲示板に目を向ける習慣をつける目的で、頻繁に掲示物を貼り替えている。スペース

の関係もあるが、3日から1週間で張り替えを行っている。時事問題、スポーツ記事、地元記事等ジャンルは問わない。これは昨年から実施しているので、時には先生方が「この記事を読ってください」と提供してくださる場合もある。これらの記事はジャンル別に色分けをしてA4の台紙に貼ることにしている。小論文を書く際に生徒が記事の確認をする場合もある。記事を探しやすいように、教育問題は青の台紙、環境問題は緑の台紙、という具合に色が決めている。新聞記事の切り抜きは台紙に貼ることで扱いやすくなる。また、台紙があることで壁面掲示の構成もしやすい。この切り抜きは掲示が終わると、台紙に穴を開けて、時系列でファイルに綴じていく。色分けした台紙に貼って掲示してあるので、「先週、黄色い紙に貼ってあった記事」「昨日まで赤い台紙に貼ってあった記事」という形で問い合わせもある。



職員室に近いので生徒が立ち止まって読む記事もあれば、そうでないものも知ることができる。廊下からの反応が授業の中で紹介する記事を選ぶ際の参考になった。職員室近くなので記事を読んで不明な点をそのまま教師に質問する姿や、立ち止まって記事を読んでいる生徒に教師

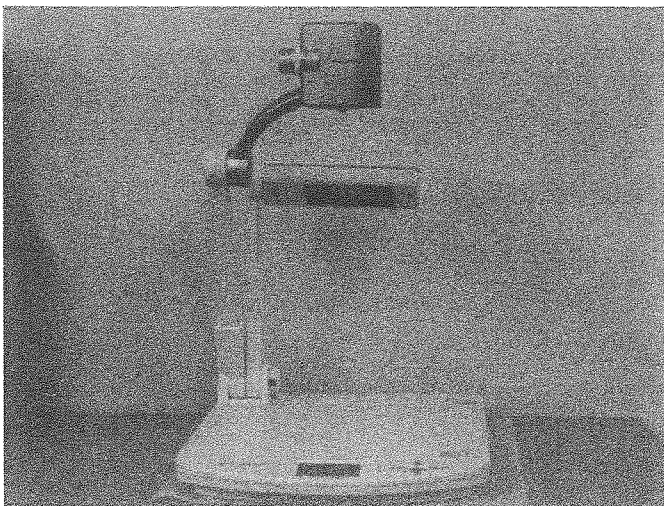
が声をかける姿も見られた。

4 実践報告その2 授業で活用する

本校では就職を希望する生徒もいる。しかし、就職活動の厳しさは増す一方である。1年生のうちから現状を知り、早期の取り組みにつなげようと、地歴公民科では労働問題に関する新聞記事を活用して授業を行なった。

事前準備として、1グループ（4～5人）に労働問題に関する新聞記事を手渡しておく。記事の内容は、失業率や大卒就職率等である。その記事に関して、分からないことを調べさせたり、感想を用意しておく。

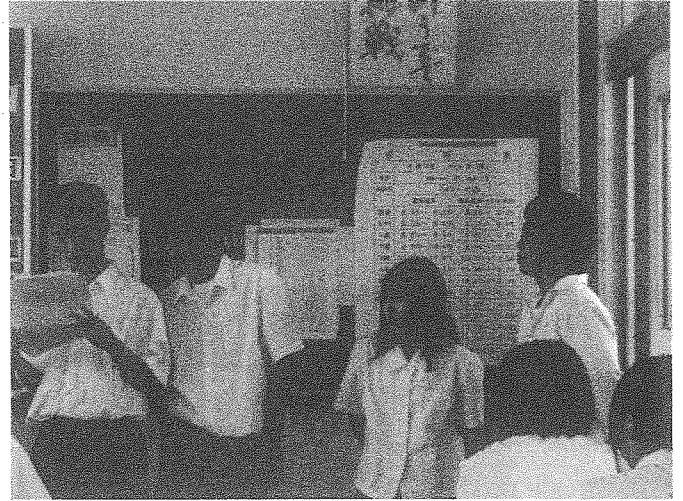
授業の前半は、教諭が労働環境の変化について単元の授業を行う。授業の後半、グループ毎に前に出て、課題記事の説明や感想を発表していく。この時、教材提示装置を利用した。それぞれの生徒が新聞記事を拡大して映し出しながら説明を行った。情報コミュニケーション技術（ICT）の向上にも繋がり、提示資料があることで、普段積極的に発言することが得意でない生徒たちも、課題記事に対して調べたことや、感想を述べる事ができた。この教材提示装置は小さく軽いので持ち運びにも便利で重宝している。



クラスメートが新聞記事を紹介すると、他の生徒も真剣に聞いている。生徒が自分の意見を

述べる上で新聞記事をきっかけにするのは効果的であった。

現在の社会情勢にあまり関心のない生徒も多い中、授業の中で新聞記事を読む機会を与えることは、主体的に物事を考える糸口となった。



5 実践報告その3 委員会活動に利用する

保健委員の活動として、保健・健康に関する記事を活用し、壁新聞を作成した。

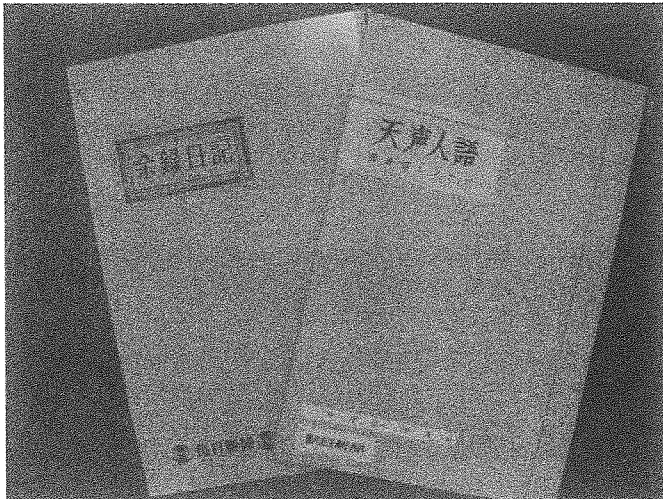
準備した記事を、それぞれ保健委員がアレンジに工夫し、保健室前廊下に掲示した。切り抜きを作るという作業を通して、生徒は他の人に勧める記事を選ばねばならない。そのためには熱心に記事を読み込むことになる。放課後の活動ではあるが、楽しみながら製作する姿が見られた。

6 実践報告その3 食育活動に利用する

本校では「高城高校版弁当の日」を実施している。それに向けて、積極的に「弁当の日」や「食育活動」について取り上げている記事を切り抜き掲示した。切り抜きを献立のヒントや、盛りつけの参考にするという声が聞かれた。普通科と生活情報科からなる本校において、宮崎日日新聞で特集された「弁当の日」関連の記事は特に反応がよく、掲示記事のコピーが欲しいという生徒もいて熱心に読んでいた。

7 実践報告その4 日々の学習に利用する

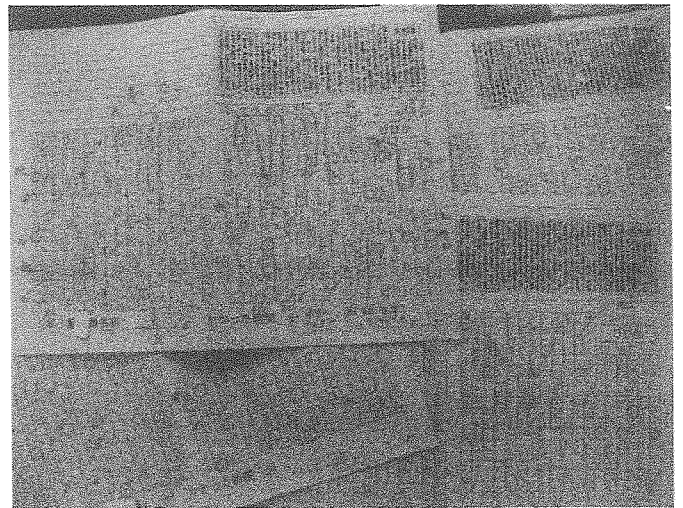
昨年朝日新聞社からコラム「天声人語」を書き写すためのノートが発売された。売れ行きがいいので話題になったが、今年は毎日新聞社からコラム「余録」の書き写しノートが発売された。



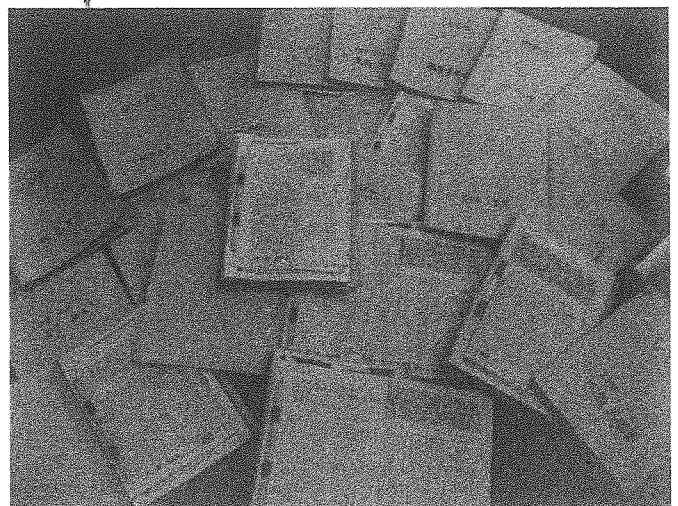
この書き写しノートを参考に、日々コラムを書き写す宿題を実施している。

当初の計画では、生徒はノートを購入する。自宅でコラムを切り抜き、所定の場所に貼付した上で書き写す。ノート1冊が1ヶ月分である。これを日々提出するという流れを考えた。しかし、インターネットの普及もあり、新聞を購読していない家庭がある事が想定された。自宅で切り抜いた上で書き写すことが困難な場合もあるかもしれない。また、それぞれの書き写しノートは文字数、行数が自社のコラムの様式に対応して作ってある。教師からすると、宿題を点検する際大変便利である。しかし書き写しノートが手に入る新聞社のコラムに限らず、様々なコラムも読ませたいと考えた。個人学習ではなく宿題とする場合は、同じコラムを素材にしたほうがよい。そこで、宮崎日日新聞社「くろしお」を始めとしてそれぞれのコラムに合わせた字数行数の原稿用紙を作成した。記名欄はもちろん、書き写すのに何分かかったかを記録する欄や感想の欄も作った。これに教師が選んだコ

ラムを貼付した上で印刷する。「ひびか（日々の課題）」と名付けたこのプリントを毎日の宿題とすることにした。



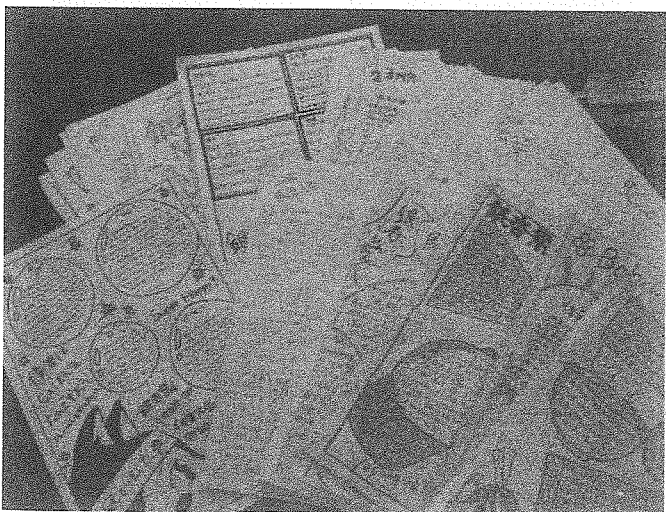
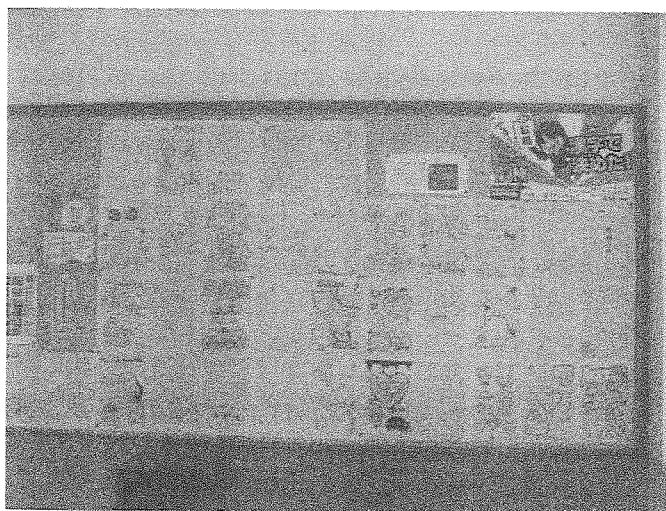
各新聞社のコラムに合わせて原稿用紙を作ったことで、点検もしやすい。点検後生徒にプリントは返却し、そのプリントは個人のファイルに綴じる。最初は不慣れで30分程時間がかかったり、訂正の多かった生徒も、1学期が終わる頃は80枚以上のコラムを書き写し、時間も早く正確に書けるようになってきた。さらに、ファイルにプリントが増えることで達成感を感じているようである。



8 実践報告その5 新聞の形を使って表現する

「ひびか（日々の課題）」実施の際、新聞を購読していないケースがあることに気がついた

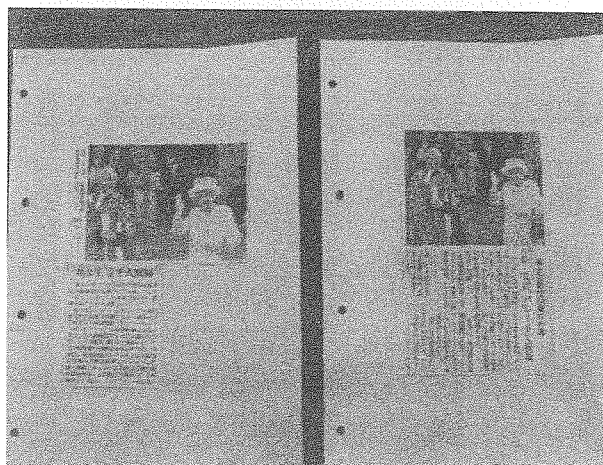
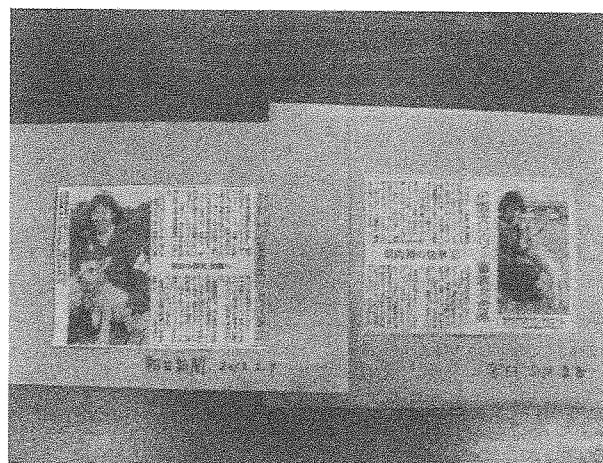
が、それに伴って新聞を手取る習慣がないことも想定された。新聞の顔である1面の記事の読み方をNIEの資料を使って学習し、学校行事を題材にした個人新聞を作った。記事の重要度に応じた配列等を学んだ上で、公正な視点を持ちつつ自分らしさを生かして自由に作成する活動をした。誰が作ったか分からないように掲示板にクラス全員分を貼った。同じ行事を体験しながら様々な表現があることを生徒は楽しんでいた。



9 実践報告その6 新聞を読み比べる

全国紙の視点、地方紙の魅力を知ってもらうために同一内容の記事を比較して考えさせた。地方のニュースの場合でも記事内容に違いがあることや、見出しの工夫、写真の違いなどがあるのに比べて、国際的なニュースの場合は新聞

社は違っても写真が同じであることや、記事の内容が同じようなものであることなどを発見し比べる楽しさを感じていた。



10 終わりに

「新聞がここにある」ことの向こう側に、多くの人々が存在することを生徒は感じていた。新聞を使った学習の感想には、取材する人、記事を書く人だけではなく、配達する人に対する思いも書かれていた。雨の日は袋に入っている、折り込み広告がある、新聞回収用の袋がある、すべて含めて新聞であると書いていた生徒がいた。昨年度はハッピーニュース探しの切り抜き活動を入り口とした。本年度は様々な新聞を使った活動を行った。生徒達からは「自分の考えを伝える」ことだけではなく「相手が伝えようとしている」ことを知ろうとする態度が感じられるようになった。今後とも様々な活動を行っていきたい。